

平成 30 年度第 1 回奈良市アートプロジェクト実行委員会 会議録

開催日時	平成 30 年 5 月 21 日（月）午後 1 時から午後 2 時 30 分まで	
開催場所	奈良市役所北棟 6 階第 19 会議室	
次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 (1) 第 1 号議案 平成 29 年度事業報告と決算報告について (2) 第 2 号議案 平成 30 年度事業計画（案）について (3) 第 3 号議案 平成 30 年度予算（案）について (4) その他 4 閉会	
出席者	委員	仲川委員長、佐々木副委員長、青木監事、萩原委員 【計 4 人出席】
	事務局	園部市民活動部長（事務局長）、中川市民活動部次長（事務局次長）、 谷田文化振興課長、吉川主査、小谷係長、荒益、一柳、西崎（以上文化振興課、事務局）
開催形態	公開（傍聴人 2 人）	
決定事項	●全議案について、承認された。 <u>第 2 号議案について</u> ●平成 30 年度も「古都祝奈良」の名称のもと、美術部門（西尾プログラムディレクター）、演劇部門（田上プログラムディレクター）の事業を実施する。 ●美術部門は、チェ・ジョンファ氏によるプログラムと「グリーン・マウンテン・カレッジ」と銘打ったアートスクールにてワークショップやアートディスカッションを展開する。 ●演劇部門は、平田オリザ氏のワークショップの継続実施、青少年と創る演劇「ならのはこぶね」を再演する。 ●他事業（東アジア文化創造 NARA クラス）、他組織（市教育委員会、第 69 回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会）とのますますの連携強化を図る。	
担当課	奈良市アートプロジェクト実行委員会事務局（市民活動部文化振興課）	

議事の内容

1 開会
2 委員長挨拶
3 議事
(1) 第 1 号議案 平成 29 年度事業報告と決算報告について (事務局より説明) <u>平成 29 年度事業報告について</u> ・ 奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良2017-2018」として、事業計画に基づき、美術と演劇の 2 つを柱に実施した。 ・ 美術部門ではチェ・ジョンファ氏による作品展を行った。市役所やリサイクルショップ、雑居ビルなど、

生活の場に作品を展示した。市役所の作品は、作家がリサイクル集積場を視察した際に、ペットボトルとゴミ収集袋を見たとき、「これこそがアート」と感じ、そこに照明を入れてシャンデリアのような作品となった。

- ・ 美術部門では、作品展示のほか、ワークショップやアートディスカッションを実施。アートディスカッションのなかでは、「現代美術は新しい価値観を植え付ける」「違和感から対話が起こる」など、文化の多様性の理解につながるコメントを参加者からいただいた。
- ・ 演劇部門では、平田オリザ氏によるワークショップを行い、広く市民から参加を募った。
- ・ また、「青少年と創る演劇」として中高生 18 人による演劇創作を行った。オーディションを行い、通過した出演者が 1 カ月くらいの集中稽古を行い、本番を迎えた。中高生ということで、年齢の幅も前回より広く、演劇経験の有無も様々であったが、過程を大切にしながら実施した。
- ・ 公演や出演者募集の宣伝方法が不足していたことについては、出演者からもアンケートで意見をもらった。
- ・ 事業全体の今後の課題として、市民の理解を得て予算を安定的に確保できるようにしたい。また、実行委員会についても必要に応じてアドバイザーなどを入れて実行力を高めていきたい。
- ・ 演劇については、保護者の理解を得ることを大事にし、また教育委員会と連携しながら、事業周知を行いたい。

平成 29 年度決算報告について

- ・ 歳出として 7,384,000 円であった。歳入 7,384,000 円については、すべて市からの負担金として入っているが、うち 3,750,000 円は文化庁文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業補助金の補助金があてられている。

(委員の意見等)

- ・ 演劇については完成度が高く、観客も真剣に観ていた。逆に、きちんと出来すぎて違和感があった。もう少しハチャメチャな感じでもよかったかなと思う。ストーリーも中高生の意見を入れ、中高生の視線で作品を創り上げていくのがいいと思う。
- ・ 事業を知らない人が多い。広報面について、より多く伝える方法を工夫していくべき。気づいてもらえるような広告をしていかなければならない。
- ・ 美術部門、市役所の作品について賛否があったことは難しい問題である。作家の思いやディレクターの方向性もある。
- ・ アートディスカッションには他のアートプロジェクトの方も来られていたが、連携強化にむけていいことであった。
- ・ これからの目標と展望については、奈良市文化振興計画のなかで位置付けていくことも必要である。ブランドビジョンのなかで実績を積み重ねていくべき。

(2) 第 2 号議案 平成 30 年度事業計画 (案) について

(3) 第 3 号議案 平成 30 年度予算 (案) について

(事務局より説明)

平成 30 年度事業計画 (案) について

- ・ 「^{ことほぐなら}古都祝奈良」という事業名のもと、西尾氏、田上氏に引き続きプログラムディレクターをお願いし、

美術と演劇の事業を行いたい。

- ・ 美術部門では、チェ・ジョンファ氏によるプログラムを考えている。また、前回のアートディスカッションで小山田徹氏に提案いただいた、アートスクールのものを行いたい。アメリカであった伝説的なスクール「ブラック・マウンテン・カレッジ」から着想を得て、例えば若草山をイメージし「グリーン・マウンテン・カレッジ」と銘打った企画はどうかと考えている。ここで、ワークショップやディスカッションを行うことを想定している。
- ・ 演劇については、「ならのはこぶね」を再演することを企画している。また、平田オリザ氏によるワークショップも継続して実施したい。
- ・ 日中韓交流事業「東アジア文化創造 NARA クラス」とも連携していきたい。
- ・ 市教育委員会と調整し、学生も参加しやすい事業スケジュールの組み立てや学校へのアウトリーチなども検討したい。
- ・ 美術部門と演劇部門の関係についても、アートスクールがあれば、両部門を繋ぐことができると考えている。

平成 30 年度予算（案）について

- ・ 事業費 9,400,000 円、広報費 1,000,000 円、事務管理費 832,000 円の計 11,232,000 円を歳出として計上したい。
- ・ 歳入としては、事業費のうち 3,854,000 円が文化庁補助金、残りの 7,378,000 円が市費。

(委員からの意見)

- ・ 教育委員会との連携はすすめるべき。奈良市文化振興計画推進委員会では、市民レベルの活動振興と都市政策レベルの事業推進を議論している。これら 2 つの間をつなぐことができるのが、教育との連携や、提案のあったアートスクールのような事業かと思う。都市ブランド力の向上を目的とした現代アート事業の推進を行いながら、市民にも草の根的に広めていくことができる。
- ・ 11 月開催の第 69 回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会は全国規模であり、そこと連携することで小学校まで含めた連携ができる。どう連携できるか、しっかり考えて欲しい。
- ・ ブラック・マウンテン・カレッジは、現代美術をやっている人なら知らない人はいない非常に有名な伝説的スクールであり、とても良い発想である。「グリーン・マウンテン・カレッジ」の名前を使って奈良で面白い活動をしていると広げて行って欲しい。
- ・ 継続的なプロジェクトの場合、それを回していく担い手を育てていくことと、毎年度予算の単発事業という枠から脱却する組立をすることが課題である。
- ・ 限られた予算の中、内容を充実させ有意義なものにして欲しい。

(事務局)

次回会議では具体案を提示するので、意見をいただきたい。